

# Forest

2012.1.10 3学年通信 第14号

## いよいよ本番スタート!

### 面接のときに

新しい年を迎え、3学期が始まりました。……と言っても、みんなは、「そろそろエンジン全開でやるか」という気持ちよりも、「不安」や、「ついに年があけてしまった。もうすく本番だ……」というような緊張感の方を強く感じているかもしれません。いや、その方がきっと正直な気持ちでしょう。ここで、ある卒業した3年生が2学期の末に書いた作文をいくつか紹介することにしましょう。緊張や不安がよくあらわれている気がします。

最近、クリスマスや正月が近いとかで世界中がさわいでいるけどなんといってもぼくが考えていることは受験のことです。受験といってもとてもはばがひろくて、「どうやって勉強したら志望校に入れるか」「面接の時にしっかりできるか」

など、まだほかにもいっぱいあります。

ぼくはそんな頭がよくないので、なおさら心配です。

うちの兄は「入試の問題は簡単だよ」などといっているけど、ぼくにとって生まれてはじめての受験なので、そういうふうに見える兄が、うらやましく思ったことが何回あったか。

ぼくは兄が合格した高校を志望していて、兄が「あそこにおちたらやばいぞ」などということをついたときに、ぼくはとってもプレッシャーを感じて、すぐに机にむかったこともありました。

ぼくは将来なりたいことがなく、就職も考えていないので、なんとしても高校に入りたいです。もしそののぞみがかんたたらどんだけうれしいことか……。

でも、もし合格しても、その半分かなしいこと、それはこの学校を卒業することです。仲のいい友達ともばらばらになり、自分の進路をあゆんでいかなければならない、でも、そうやってぼくたちの年上の人たちはやってきたから「これもさだめだな」と思います。

もしかしたら、社会人になって今まであった人といっしょに仕事をするかもしれないと思ったりもします。

そういったことを最近ぼくは考えています。中学3年生はとてつらい……などとか。(男子)

「もしそののぞみがかんたたらどんだけうれしいことか……」という彼の言葉が心に残ります。その願いがかなうようにと願わずにはられませんでした。

いま、やっぱり進路のことを考えています。考えているというよりショックの方が大きかったかもしれません。(私立高校の)推薦をとれるはずだったのに、内申点が1つ足りなくて実はすごくショックを受けました。家に帰れば親とかに

文句（文句かはしらないけど……）を言われ続けて、今でも進路の話をする、やっぱりケンカみたいになってしまう。

親は心配していつてるのかもしれないけれど、全然うれしくもなかった」。(中略) 私も短気でおこりっぽい性格です。私もがんばらなかつたのが悪いと思う。他の人も私と同じ思いをしている人もいるし、内申点が上がってよるこんでいる人もいるだろう。もうひとがんばりすれば……と後悔している。

でも、ショックを受けたのは私自身だから、今から高校合格と言われるまでは、せいっぱい後悔のないようにやっていきたい。(女子)

最近、受験という精神的な重みがみんなにのしかかかっていて、教室中が暗いムードになっているということを感じます。(中略)

2学期の成績がでるまで、それは思いなやみました。「落ちたらどうしよう……」などということが日々、頭の中を駆けめぐり、胃がいたくなり、夏休み中にはごはんもろくにのどを通らないという時期もありました。

だから、他の人の今の気持ちがよくわかります。(男子)

これらの作文をしんみりしながら読みました。

ほんと、みんなが悩んだり不安になっているんだと。「私一人が悩んでいるんじゃないか？」と思っている人もけっこういるでしょうが、そんなことないということがこれらの作文からわかります。不安をかかえているみんなが、それぞれ自分が納得した進路を選んでいくことを願っています

※ ※ ※

早いもので、もうすぐ本番の「入試」が始まります。(もう、終わった人もいますが、大部分の人はこれからです)

本番を前に、試験を受ける人のドキドキは今は最高期でしょう。私立の入試には、ほとんど「面接」があります。また、就職する時にも「面接」がありますね。「面接に失敗したらどうしよう?」「うまく答えられなかったらどうしよう?」……心配しだしたらきりがなくなるかもしれないですね。そういう心配をする人たちに、次のような文をおくりませう。前日・当日に、読み返してみてください。ちょっとでも落ち着いてくれるとうれしいですね。

## 面接の時に

中 一夫

私立高校の入学試験が始まった頃のことです。試験をもう終えて余裕しゃくしゃくの人、これからの本番を前にドキドキしてる人、試験の結果を気にして落ち着かない人……いろんな人がいる中で一人の男の子が僕のところに相談に来ました。

彼は最初の試験に失敗してしまったのです。それも面接で。ほんとに自信なさそうに、彼は僕に話します。

**「あがっちゃって、自分の住所を間違っちゃったんです。」**

**それで<シマッタ!>って思って、あわてて言い直したら。また間違っちゃったんです。……落ちて当然ですよ。……」**

彼の「俺って、なんてなさけないんだろう」という声にならない言葉が聞こえ

てくるようでした。そして彼は僕にこう聞いたのです。

「先生、失敗するのやだったら、もっと面接の練習をしないといけないのかな？」

彼はとても明るい子。素直な子。ただ、改まった面接のなんかでは彼は自信がなくて、彼のステキな面がなかなか出なかったみたい。

彼は面接にそなえて何回も練習していました。それを知っていた僕は彼にこう言いました。

「あのね、どんなに練習してもミスはするんだよ。それは絶対。敬語をうまく使えなかったり、＜母＞って言わないで、＜お母さん＞って言っちゃったり、住所を間違えたり……とにかくいろんな小さなミスなんかするの。面接の間に必ず1コはあって、あとで＜こういう風に答えればよかった＞って、必ず後悔するんだよ。＜失敗しないように！＞ってガンバルとさ、悲惨だよ。だって、どんな質問にも答えられるように準備しとかないといけないでしょ。＜あらゆる考えられる質問に対しての模範回答を用意して、それを覚えておく＞……そんなの無理だよ。

それよりね、失敗は必ずするんだから、失敗した時の事を考えた方がいいと思うよ。

それで僕が一番いいと思うのはね、失敗したり間違えたら、＜間違えました＞って言うことなの。＜間違えました＞って言い直せばいいの。それですんじゅうの、間違いや、失敗なんて。

別に相手は君のミスをチェックするために面接してるわけじゃないでしょ。

＜この子はどんな子かな～？＞って、知りたいの。

だからミスしたかどうかっていうのは、あんまり関係無いと思うよ。＜間違えま

した＞って、正直に言って直したりする方がずっと印象いいと思うよ。

彼は僕の言葉にちょっとだけ、微笑んでくれたようでした。

※ ※ ※

「その後の彼はどうなったか？」って？  
もちろんとびっきりのステキな笑顔で卒業していきましたよ。

### ●おわりに

とにかく、みんなの中の多くの人にとって、初めてのドキドキの瞬間。みんなの笑顔をこれからどんどん見られたらと願っています。

がんばってね。ファイト！ファイト！